



2017. 4. 10.

4月 ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

今年は桜の開花が少し遅かったことが幸いして、入園式や始業式の時期に満開を迎えて、いつも以上に新鮮な気持ちで式を迎えることができたのではないのでしょうか。新しい年度を迎えて、新入園の子どもたちは初めての幼稚園はどんなところなんだろうと、少し不安な「ドキドキ」した気持ちだったかも知れません。また進級する子どもたちは少しお兄さん、お姉さんになった「ワクワク」した気持ちを感じているかも知れません。そして保護者の方々もまた様々な気持ちでお子様を送り出していただいたことでしょうか。4月という時期は大人、子どもにかかわらず、だれにとっても新鮮な気持ちに加え新たなスタートに「ドキドキ」「ワクワク」する時期なのかも知れません。

キリスト教保育連盟は、2017年度の年主題を、“愛されて育つ”と決めました。これはキリスト教保育に携わっている者にとって常に大切にしているものであり「今さら」と感じる要素もあるかも知れません。しかし、あらためてその意味の重さや難しさを再認識し、日々の保育の中で常に問い続けて保育を行っていくことの大切さを投げかけられているように感じます。

キリスト教では神の愛が万物に注がれており子どもたちだけでなく、その場にかかわる教諭、職員、家族も含めてすべてに神様の愛が注がれ、私たちが生かされている根源となっています。キリスト教保育において“愛されて育つ”には神様の愛に加え、親から子への愛情であったり、教諭から園児への愛情であったり、人から人への愛は欠かすことができません。人はコップのようなものです。愛情がたっぷり注がればやがていっぱいに満たされてあふれ出します。だから温かい優しい言葉を受けた子どもから流れ出すのは温かく優しい言葉です。注がれるものが愛情でなく憎しみや怒りであれば、憎しみや怒りがあふれ出すのかも知れません。

また、たくさん愛情を注がれて育った子どもたちは生きる力の強い子どもに育っていきます。それは愛されて育つことによって基本的信頼感が身につきます。自分は神様やお父さんお母さん、皆に愛され、守られている。そのように自然に思えるようになるのです。愛されている実感があればそれは自信につながります。自信が心の安定、安心感へとつながります。そして常に様々なことにチャレンジすることができる生きる力へとつながっていくのです。

しかし、愛情の注ぎ方によっては、子どもの成長のためにならないことがあることも忘れてはなりません。子育てとは、子ども自身が自立できるようになることを支える行為とも言えるわけです。あまりにも過保護・過干渉な親であったり、指示をして従わせるだけの保育を進めていく教諭であったりするのであれば、子どもは自ら考え、判断し、行動できる人間としては成長できないでしょう。これは子どもの成長を阻害するという意味では決して愛情とはいえないのかも知れません。わが子に対する本当の愛情とは、どの様なものなのかを見出していく作業も親にとっては大切な使命です。また幼稚園にとっても、子どもたちの本当の成長を目指して、その人的環境を中心としたすべての環境を整えていく使命があることを忘れてはなりません。

この1年間、豊かな愛情を注がれて育っていく子どもたちを保護者の皆様とともに見守っていくことができると願っています。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です。」

(エフェソの信徒への手紙5章1節)

4月主題 「であう」

聖句 “あなたがたに平和があるように”

(ヨハネによる福音書20章26節)